

## 『議題2 地域間幹線系統の事業評価について』

地域間幹線系統（市町を跨ぐ広域的・幹線的な系統）確保維持計画については、静岡県が定める評価基準に基づき、事業評価を行っており、事業者が評価基準に定められた評価項目に沿って自己評価を行い、その結果を県協議会にて取りまとめを行っております。

各市町においては、県協議会からの依頼を受け、取りまとめられた自己評価を参考に、今後の取組方針等について市町協議会で協議・検討を行い、その結果を県協議会に報告します。

## ① 静岡県からの評価概要の説明

- 資料：別紙2－1 令和5年度地域間幹線系統に関する事業評価
- 別紙2－2 令和5年度地域間幹線系統の事業評価結果（概要）
- 別紙2－3 令和5年度地域間幹線系統総合評価一覧表

## ② 事業者からの幹線系統の説明

- 資料：別紙2－4 地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート
- 別紙2－5 路線図

## ③ 静岡市の取組方針等の協議

- 資料：別紙2－6 地域間幹線系統市町取組シート（様式3）

# 令和 5 年度 地域間幹線系統に関する事業評価

---

静岡県交通基盤部都市局地域交通課

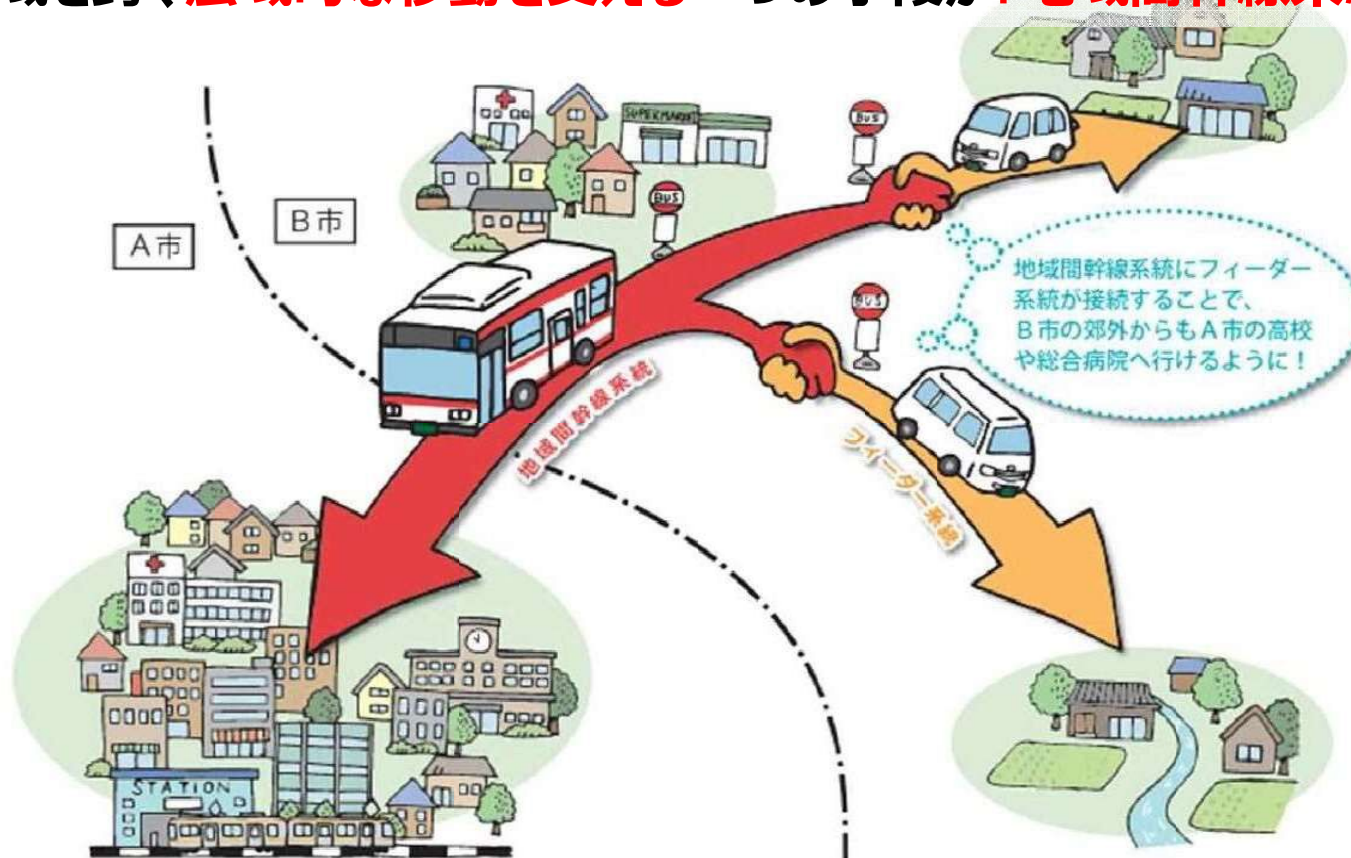
富国有徳の理想郷 - しずおか

ふじのくに



# 地域間幹線系統とは

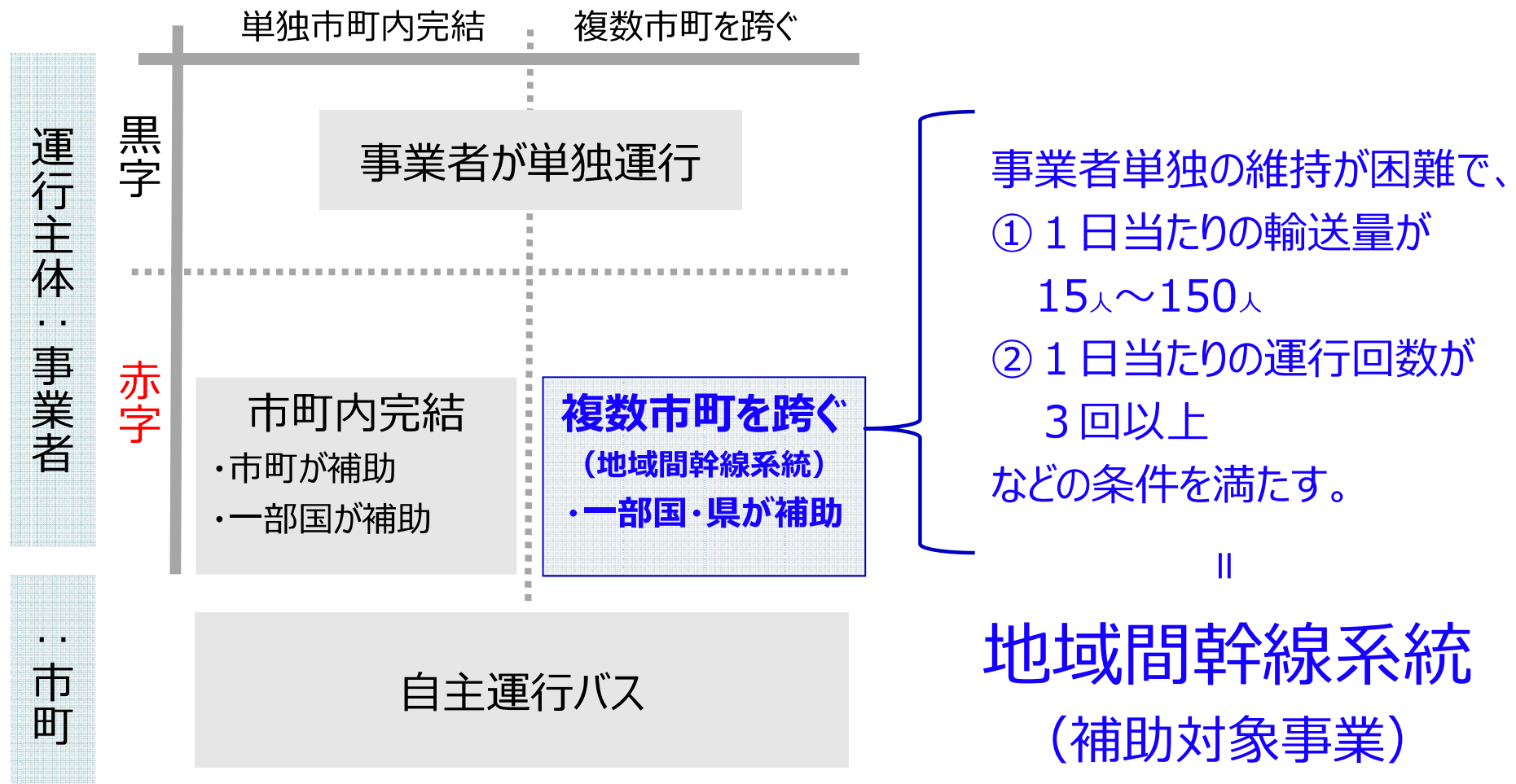
日常生活における通勤、通学、通院の流動実態等から、  
結びつきの強い市町の組み合わせを**交通圏**として設定。(出典：中部運輸局「中部の交通圏」)  
圏内や圏域を跨ぐ**広域的な移動を支える**一つの手段が「**地域間幹線系統**」です。



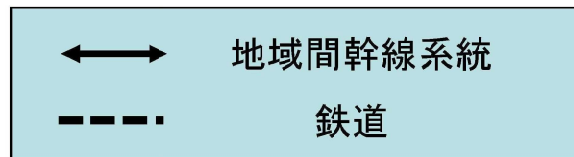
出典：地域間幹線バスが地域で役立つようにするために(監修：中部運輸局)

# 地域間幹線系統に係る国・県の補助対象事業

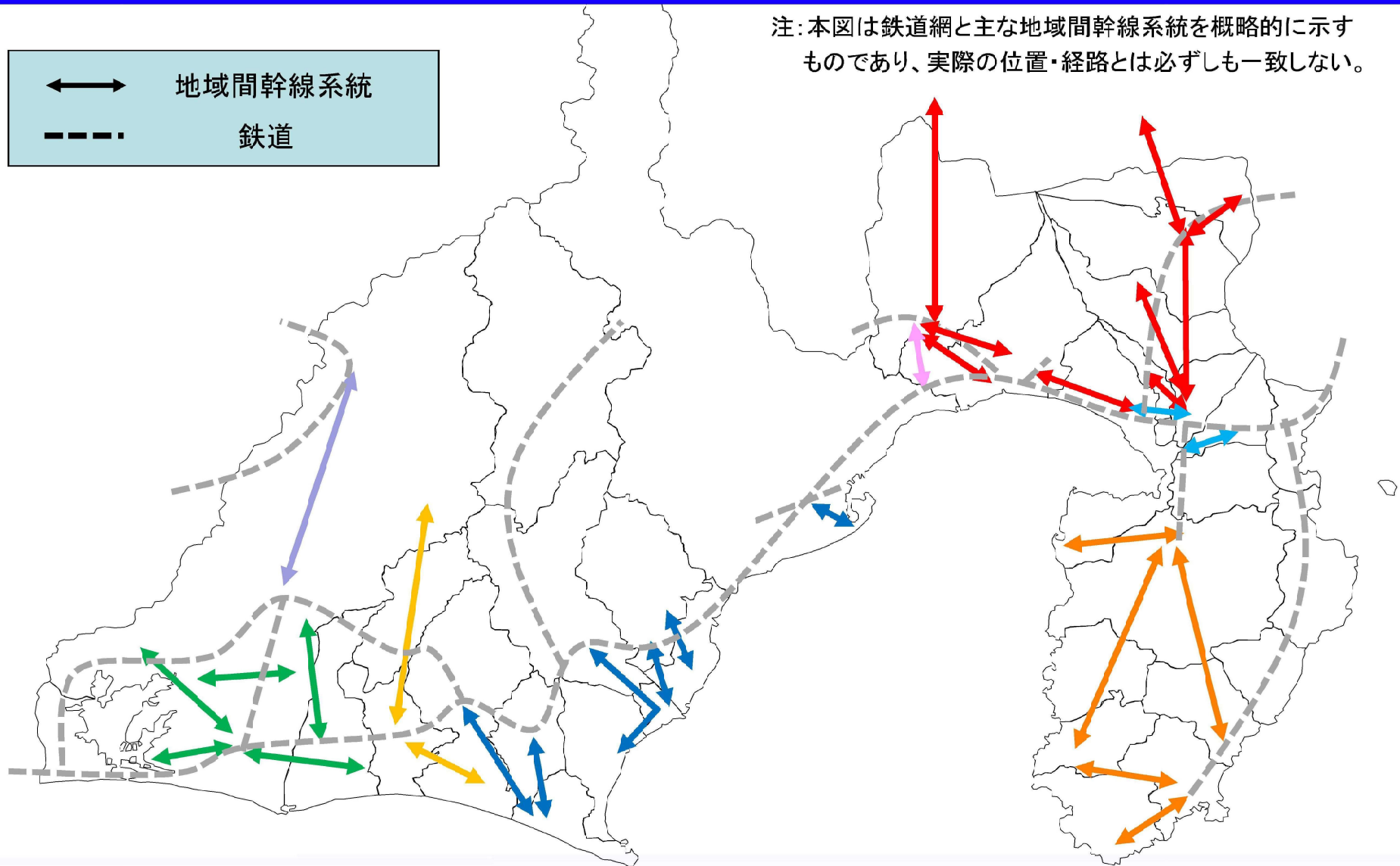
## 収支から見る乗合バス事業の全体像と幹線系統の位置付け



# 県内の地域間幹線系統(概略図)



注:本図は鉄道網と主な地域間幹線系統を概略的に示すものであり、実際の位置・経路とは必ずしも一致しない。



富国有徳の美しい“ふじのくに”

静岡県





# 地域間幹線系統の評価(なぜ評価を行うのか)

- 補助対象事業が適切に行われているか確認する
  - 評価結果を分析し、事業改善に繋げる
- 補助対象事業をより効果的、効率的に実施するため

(参考) 事業評価実施の根拠

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱

## 第3条

5 協議会※は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。

※本県においては静岡県生活交通確保対策協議会を指す。



# 静岡県地域間幹線系統評価基準

次の項目を点数化し、合計点をA・B・Cで評価

項目	評価する内容	評価
①運行回数	計画値に対する実績値	計画数以上：3点 計画数未満：0点
②収支率	実績値	30%未満：0点（5%毎に3点加算） 55%以上：18点（満点）
③乗車人員	計画値に対する実績値	5%超：6点、△5%以上5%未満：3点 △5%超：0点
④ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能拠点数	鉄道駅及びバスターミナルでの結節：1箇所2点 その他のバス停での結節：1箇所1点
⑤広域移動状況	市町を跨いで移動する人の割合	5%未満：0点（5%毎に5点加算） 20%以上：20点（満点）
⑥キロ当たり経費	国が示す標準単価との比較	単価以上：0点（△5%毎に5点加算） △15%超：12点
合計		A評価：52～79点 B評価：26～51点 C評価：0～25点



# 令和5年度の評価結果

※詳細は別添

	A評価	B評価	C評価	系統数
山梨交通	0	1	0	1
秋葉バスサービス	4	0	0	4
遠州鉄道	11	8	0	19
しずてつジャストライン	1	10	0	11
富士急モビリティ	3	1	0	4
富士急バス	2	0	0	2
富士急静岡バス	4	0	0	4
富士急シティバス	3	3	0	6
伊豆箱根バス	3	1	0	4
東海バス	6	0	0	6
水窪タクシー	0	1	0	1
合 計	37	25	0	62





# 評価結果内訳(昨年度との比較)

昨年度に比べ、11系統の評価が向上（平均点は3.1増加）

	事業者名	系統名	R 4	R 5	比較
1	山梨交通	富士宮駅～イオン、皇山台～薄原病院	B	B	—
2	秋葉バスサービス	秋葉線	A	A	—
3		秋葉中遠線	A	A	—
4		秋葉中遠線	A	A	—
5		秋葉中遠線	A	A	—
	遠州鉄道	大久保線	C		
		伊佐見線	B		
6		浜北医大三方原聖隷線	B	A	○
		伊平線	A		
7		磐田市立病院福田線	B	A	○
8		中ノ町磐田線	B	B	—
9		秋葉線	C	B	○
10		磐田天竜線	B	A	○
11		磐田天竜線	B	B	—
12		掛塚さなる台線	A	A	—
13		内野台線	A	A	—
14		内野台線	B	A	○
15		磐田市立病院福田線	B	B	—
16		引佐線	A	A	—
17		萩丘都田線	A	A	—
18		大塚ひとみヶ丘線	B	B	—
19		気賀三ヶ日線	A	A	—

	事業者名	系統名	R 4	R 5	比較
20	遠州鉄道	奥山線	A	A	—
21		志都呂宇布見線	B	B	—
22		志都呂宇布見線	B	B	—
23		浜名線	B	B	—
24	しずてつ ジャストライン	掛塚さなる台線	A	A	—
25		三保草薙線	B	B	—
26		五十海大住線	B	B	—
27		焼津岡部線	B	B	—
28		藤枝吉永線	A	B	△
29		島田静波線	B	B	—
30		島田静波線	A	B	△
31		藤枝相良線	B	B	—
32		菊川浜岡線	B	B	—
33		掛川大東浜岡線	B	B	—
34		掛川大東浜岡線	A	A	—
35	掛川大東浜岡線	B	B	—	
36	富士急 モビリティ	御殿場線	A	A	—
37		駿河小山線	A	A	—
38		十里木線	B	B	—
39	富士急バス	河口湖線	A	A	—
40		河口湖線	A	A	—
41		新富士線	B	A	○

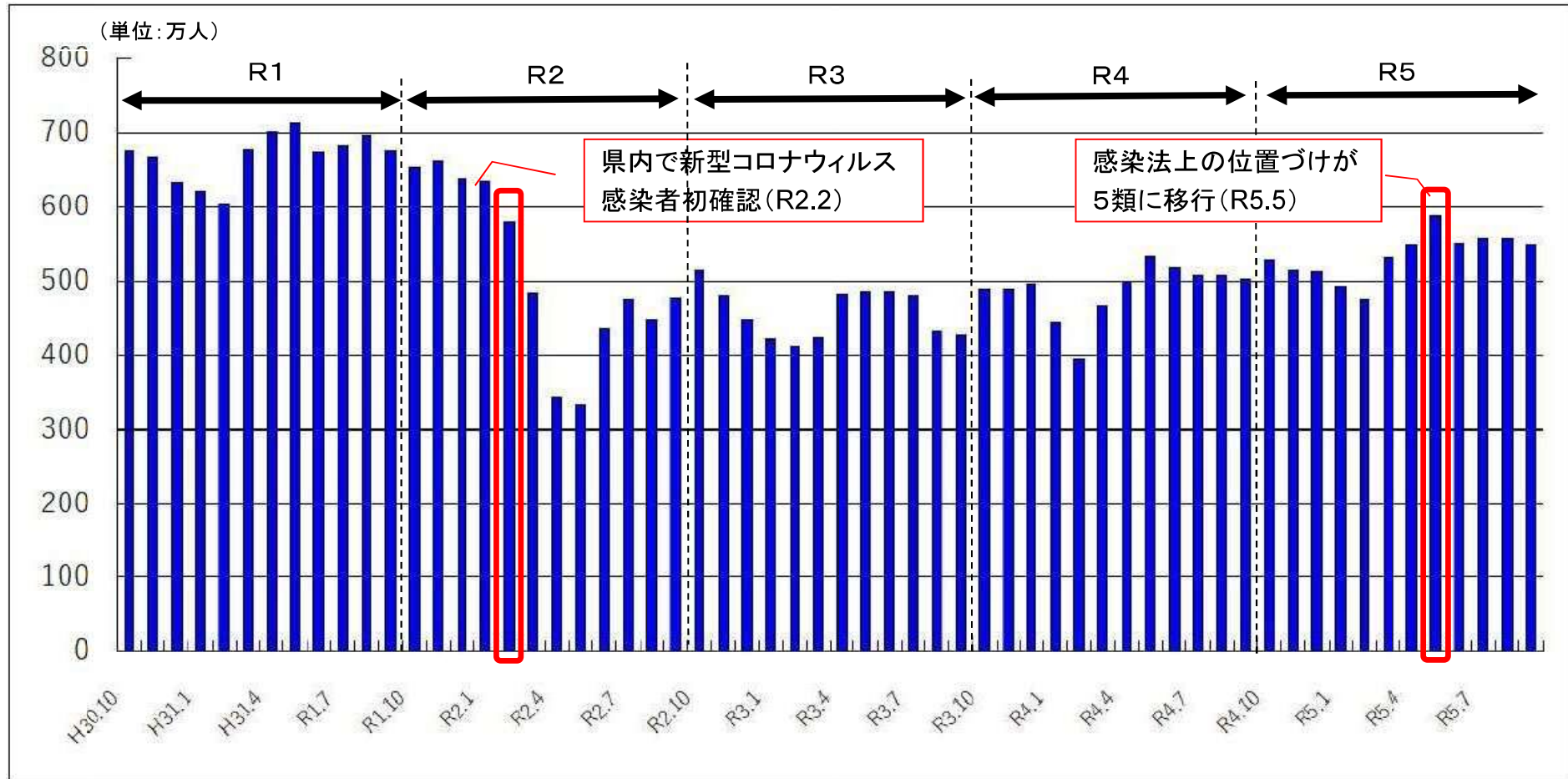
	事業者名	系統名	R 4	R 5	比較
42	富士急 静岡バス	曾比奈線	A	A	—
43		大淵線	A	A	—
44		大月線	A	A	—
45		大月線	A	A	—
46	富士急 シティバス	駿河平線	A	A	—
47		須山線	A	B	△
		須山線	B		
48		原線	B	B	—
49		桜堤線	B	B	—
50		がんセンター線	B	A	○
51		がんセンター線	A	A	—
52	伊豆箱根バス	大場函南線	B	B	—
53		沼津大岡三島線	A	A	—
54		長岡伊豆三津シーパラダイス線	A	A	—
55		沼津静岡長岡線		A	
56	東海バス	石廊崎線	B	A	○
57		天城峠線	B	A	○
58		戸田線	B	A	○
59		西海岸線	B	A	○
60		バサラ峠線	A	A	—
61		バサラ峠線	A	A	—
62	水窪タクシー	北遠本線	B	B	—

※本年度の評価結果内訳は別添資料参照



# 県内の乗合バス利用者の推移

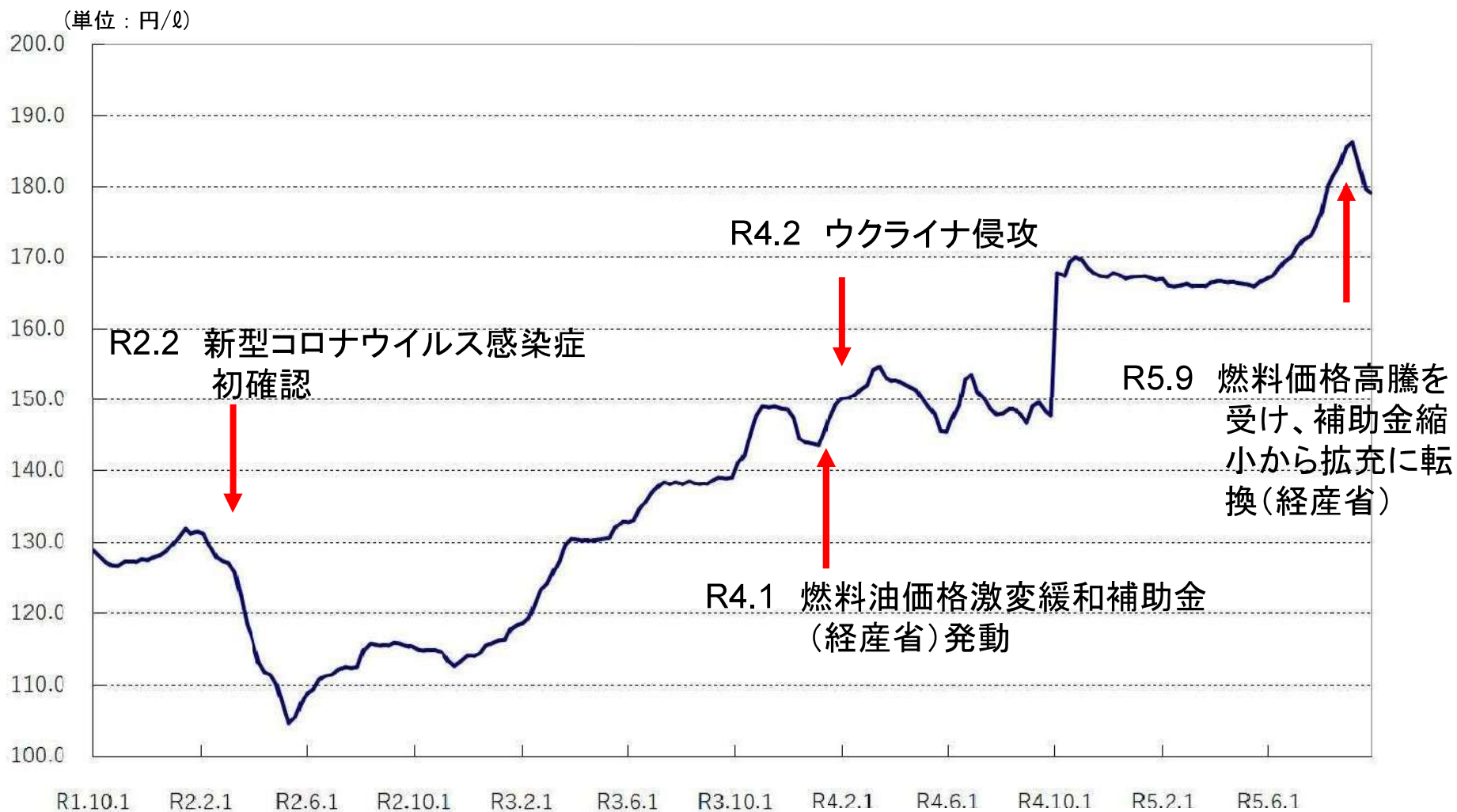
(H30.10～R5.9)



(静岡県地域交通課調査)

# 燃料価格など物価高騰の影響①

## ■ 県内の軽油小売価格の推移 (R1.10~R5.9)



(資源エネルギー庁調査をもとに県地域交通課作成)



# 燃料価格など物価高騰の影響②

## ■ 車両維持費の推移 (H30.1～R5.9)

(物価指数：2020年=100)



(2020年基準消費者物価指数を元に県地域交通課作成)

# 事業者による取組の例

区分	事例
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"><li>・エコドライブ取組強化期間の設定</li><li>・デジタルタコグラフを活用した指導で燃料費を抑制</li><li>・燃料使用量の削減(車両搭載燃料を抑制)</li><li>・EVバスの導入による動力費の削減</li></ul>
利用促進策	<ul style="list-style-type: none"><li>・バスロケーションシステムの導入</li><li>・スマホ定期券の販売を開始</li><li>・キャッシュレス決済機器の導入</li><li>・市町と連携したバスの乗り方教室の実施</li><li>・HPの多言語化によるインバウンド客の利用促進</li></ul>



# 県内自治体による支援の事例

区分	事例
利用促進策	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ 公共交通利用券の配布</li><li>▪ バスの日イベントの実施</li><li>▪ バスロケーションシステム導入費用の補助</li><li>▪ キャッシュレス決済機器導入費用の補助</li></ul>
物価高騰 対 策	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ 車両維持費への補助</li><li>▪ 燃料費高騰分の補助</li></ul>





## 令和 5 年度地域間幹線系統の事業評価結果（概要）

## 1 事業評価の目的

事業評価は、静岡県生活交通確保対策協議会が定めた静岡県地域間幹線系統確保維持計画に位置づけられた補助対象系統について、事業の実施状況の確認や目標の達成状況等の評価を行い、市町が開催する地域公共交通会議等における評価内容に対する議論・検討の活性化や広く県民に内容を公表することによる理解の促進など、補助対象事業が効果的、効率的に実施されることを目的として実施している。

## 2 評価項目

項目		内容
前提事項 (点数無)	主な運行目的	利用実態等を含めた当該系統の運行目的
	増収策	路線維持のための増収策
	費用削減策	路線維持のための費用削減策
評価事項	運行回数	計画運行回数に対する実績運行回数を評価(3点満点)
	収支率	実績値を評価(収支率 55%以上満点)
	乗車人員	計画値に対する実績値を評価(+5%以上満点)
	ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能な拠点数を評価(上限 20 点)
	広域トリップ状況	バス利用者の市町を跨ぐ移動割合を評価(20%以上満点)
	キロ当たり経費	国上限単価と事業者単価を比較(国単価比-20%超満点)
	拠点等アクセス状況	バス停から半径 500m 以内の拠点施設を記載(評価点無)

## 【各項目に評価点を設定し、合計点に応じて以下のとおり評価】

評価	内容
A (52~79 点)	地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B (26~51 点)	地域間幹線系統として適した運行となっている
C (0~25 点)	地域間幹線系統として改善に努力を要する

## 3 事業評価結果の概要

全体評価：A（参考：R3：B、R4：B、R5：A）

- ・ 評価対象系統全 62 系統中、A 評価：37 系統、B 評価：25 系統、C 評価：0 系統
- ・ 平均点数が 52.1 点（R4 比+3.1 点）であることから、全体評価を『A』とした。
- ・ 各系統の評価結果は別添「令和 5 年度地域間幹線系統総合評価一覧表」のとおり。

令和5年度地域間幹線系統総合評価一覧表

事業者名	系統名	評価項目① 運行回数 満点3点	評価項目② 収支率 満点18点	評価項目③ 乗車人員 満点6点	評価項目④ ネットワーク 満点20点	評価項目⑤ 広域トリップ 満点20点	評価項目⑥ キロ当たり経費 満点12点	点数 (A: 52~79) (B: 26~51) (C: ~25)	評価				事業者 平均	全体評価		
									A	B	C	計				
山梨交通	1 富士宮駅・イオン・星山台・蒲原病院線	3	3	3	6	20	3	38		○			1	38.0	[全体評価の理由] ・全62系統中37系統がA評価である。 ・平均評価点数が52.1点である。	
	2 秋葉線(袋井駅前～遠州森町～気多)	0	6	3	11	20	12	52	○							
	3 秋葉中遠線(袋井駅前～袋井市民病院～遠州森町)	3	15	6	11	20	12	67	○				4	57.5		
	4 秋葉中遠線(大東支所～新横須賀～新岡崎～袋井駅南口)	3	9	3	6	20	12	53	○							
	5 秋葉中遠線(横須賀車庫～新岡崎～袋井駅南口)	0	15	6	5	20	12	58	○							
6 浜北医大三方原線	0	9	6	17	20	3	55	○								
遠州鉄道	7 磐田市立病院福田線(磐田市立病院～磐田駅～豊浜郵便局)	0	18	6	7	20	3	54	○							
	8 中ノ町磐田線(浜松駅～中ノ町～磐田営業所)	3	18	6	9	10	3	49		○						
	9 秋葉線(春野車庫～西鹿島駅～厚生会)	0	3	0	7	20	3	33		○						
	10 磐田天竜線(山東～新開～磐田駅)	0	18	6	8	20	3	55	○							
	11 磐田天竜線(ららぽーと経由)	0	12	3	8	20	3	46		○						
	12 掛塚さなる台線(浜松駅～掛塚～豊浜郵便局)	0	18	6	9	20	3	56	○							
	13 内野台線(内野台車庫)	0	18	3	10	20	3	54	○							
	14 内野台線(サンストリート浜北)	3	18	6	10	20	3	60	○							
	15 磐田市立病院福田線(磐田駅南口～豊浜郵便局)	0	12	6	5	20	3	46		○			19	52.3		
	16 引佐線	0	18	6	20	20	3	67	○							
	17 萩丘都田線	3	18	6	10	15	3	55	○							
	18 大塚ひとみヶ丘線	0	18	6	13	0	3	40		○						
	19 気賀三ヶ日線	0	18	6	15	20	3	62	○							
	20 奥山線	3	18	6	14	20	3	64	○							
	21 志都呂宇布見線(浜松駅～つるが丘入口～山崎)	0	18	6	7	15	3	49		○						
	22 志都呂宇布見線(浜松駅～堀出橋～舞阪駅)	3	18	6	8	10	3	48		○						
	23 浜名線	3	18	6	8	5	3	43		○						
	24 掛塚さなる台線(浜松駅～芳川～掛塚)	3	18	6	8	20	3	58	○							
	しずてつジャストライン	25 三俣草薙線	3	12	0	9	5	0	29		○					
		26 五十海大住線	3	9	3	7	20	0	42		○					
		27 焼津岡部線	3	12	6	5	20	0	46		○					
		28 藤枝吉永線	3	15	0	8	20	0	46		○					
		29 島田静波線(島田駅前～静波海岸入口)	3	6	3	9	20	0	41		○					
		30 島田静波線(島田市立総合医療センター～島田駅前～静波海岸入口)	3	6	6	13	20	0	48		○			11		43.4
31 藤枝相良線		3	9	6	12	20	0	50		○						
32 菊川浜岡線		3	15	6	4	20	0	48		○						
33 掛川大東浜岡線(掛川駅前～浜岡営業所)		3	3	0	7	20	0	33		○						
34 掛川大東浜岡線(中東総合医療センター～浜岡営業所)		3	18	3	9	20	0	53	○							
35 掛川大東浜岡線(掛川駅前～大東支所)		3	12	3	4	20	0	42		○						
富士急モビリティ	36 御殿場線	3	18	6	14	20	0	61	○							
	37 駿河小山線	3	15	6	11	20	0	55	○				4	57.2		
	38 十里木線	3	12	6	8	20	0	49		○						
	39 河口湖線	3	18	6	17	20	0	64	○							
富士急バス	40 河口湖線	3	18	6	17	20	0	64	○							
	41 新富士線	3	12	6	17	20	0	58	○				2	61.0		
富士急静岡バス	42 曾比奈線	3	18	6	8	20	6	61	○							
	43 大淵線	3	18	3	10	20	6	60	○				4	61.5		
	44 大月線(吉原中央駅～富士宮駅)	3	18	3	10	20	6	60	○							
	45 大月線(新富士駅～静岡県富士山世界遺産センター)	3	18	6	12	20	6	65	○							
富士急シティバス	46 駿河平線	0	18	6	11	20	0	55	○							
	47 須山線(三島駅～須山)	0	12	3	12	20	0	47		○						
	48 原線	0	18	6	10	5	0	39		○						
	49 桜堤線	0	18	3	7	20	0	48		○			6	49.0		
	50 がんセンター線(沼津駅～がんセンター)	3	18	6	6	20	0	53	○							
	51 がんセンター線(三島駅～がんセンター)	0	18	6	8	20	0	52	○							
伊豆箱根バス	52 大場函南線	3	9	6	7	20	3	48		○						
	53 沼津大岡三島線	3	18	6	11	20	3	61	○				4	53.7		
	54 長岡伊豆三津シーパラダイス線	3	18	3	7	20	3	54	○							
	55 沼津静浦長岡線	3	18	6	7	15	3	52	○							
	56 石廊崎線	3	12	6	7	20	6	54	○							
東海バス	57 天城峠線	3	12	6	15	20	6	62	○							
	58 戸田線	3	15	6	7	20	6	57	○							
	59 西海岸線	3	12	0	11	20	6	52	○				6	58.5		
	60 バサラ峠線(下田駅～堂ヶ島)	3	12	6	13	20	6	60	○							
	61 バサラ峠線(下田駅～宇久須)	3	18	6	13	20	6	66	○							
水窪タクシー	62 北濃本線	0	0	3	13	5	12	33		○			1	33.0		
計							平均	52.1	37	25	0	62				

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

事業者名

しずてつジャストライン株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

三保草薙線

折戸車庫～草薙団地・県立大学前～折戸車庫

計画策定年度 令和4年度

運行期間 R4.10.1～R5.9.30

評価年度 令和5年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	( 3,388.0 )回 ( 9.2 回/日)	( 3,388.0 )回 ( 9.2 回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	51.4%	46.2%	12	~29% 0点 30~34% 3点 35~39% 6点 40~44% 9点 45~49% 12点 50~54% 15点 55%~ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	130,381人	118,580人	0	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(5)箇所	9	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	6.7%	5	~4% 0点 5~9% 5点 10~14% 10点 15~19% 15点 20%~ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	施設名称		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	459.72円	0	単価を上回った 0点 単価~▲5% 3点 単価▲6~▲10% 6点 単価▲11~▲15% 9点 単価▲16~▲20%超 12点	地域キロ当たり標準経常費用(431.62円)
合計				29	評価指標	B

A(52~79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている  
B(26~51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている  
C( ~25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三保及び草薙沿線住民の静岡市立清水病院までの通院</li> <li>・清水区住民の草薙駅及び狐ヶ崎駅までの通勤</li> <li>・静岡県立大学までの通学</li> </ul>
増収策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR運行時刻に合わせたダイヤ改定の実施</li> <li>・小学校へのバス教室の実施</li> <li>・バス乗り方リーフレットの配布</li> <li>・全国IC相互利用の導入(2013年3月より)</li> <li>・ICカード電子マネー機能搭載</li> <li>・バスロケーションシステムの運用による利便性向上</li> </ul>
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコドライブの徹底</li> <li>・利用実態に見合った運行便数への改善</li> <li>・燃料消費率の改善(デジタルタコグラフによる、燃費改善の為の指導)</li> <li>・燃料使用量の削減(車両搭載燃料を抑制)</li> <li>・車両使用年数の見直しと車両修繕費の基準見直し</li> </ul>

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>乗換え拠点 … (草薙駅南口・忠霊塔)                      バス停 … (静岡市立清水病院・折戸車庫・県立大学入口・狐ヶ崎駅前・龍華寺)</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>東海大学(海洋)・東海大附翔洋高校、中学校・清水三保第二小学校・清水海上技術短期大学校・清水南高校・ベイドリーム清水・清水駒越小学校・静岡市立清水病院・日本平運動公園・船越堤公園・清水第四中学校・清水船越小学校・狐ヶ崎駅・イオン清水店・清水有度第一小学校・御門台駅・清水第七中学校・草薙駅・静岡県立大学・清水草薙スポーツ広場</p>



## 地域間幹線系統市町取組シート

様式3

市町名

静岡市

系統名	取組内容
三保草薙線	<p>本系統は、通勤や通学、通院等に利用され、市民の生活に欠かせない移動手段であるため、引続き路線の維持に努める。 維持にあたっては、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①不採算額の補助金による補填 <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市バス路線維持費補助金により、本線の欠損額を全額補填</li> </ul> </li> <li>②バス利用者への周知・広報活動等を支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内転入者へのバス路線図の個別配架、市窓口等へバス路線図の配架</li> <li>・市ホームページに路線図及び時刻表のリンクを設定</li> <li>・台風等の災害時に運行状況を市ホームページにアップ</li> </ul> </li> <li>③バスの利用環境改善への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンステップバス、燃料電池バスの導入に対する補助制度</li> <li>・停留所への上屋、ベンチ等の整備に対する補助制度</li> </ul> </li> <li>④事業者との連携による企画乗車券の販売</li> <li>⑤バス利用促進のイベントの企画</li> <li>⑥2種免許を持った市職員（退職予定者）に対してバス運転手募集のチラシを配架</li> </ul>

(\*) 当該系統に対するMMなど利用促進に関する取組や金銭的負担等について具体的に記載